



法
三
初
院

前
後
天
物
格
全
部
九
冊
八
十
二
卷

13
1295
1



1295
1-18

明治三十九年一月二九日
水谷弓彦



後之物得序



史部不歸之迹物

以地定 弘也 著 捕 非

之 百 方 士 入 令 有 後 了 了

大 道 得 心 壽 可 美 平

徳古江志話 殊甚
身名 子 徳 平

省安永七戌十二月

撰者

百華堂

上 狗



海天也張忠自録

身一



恒長明徳之系物の中

附 天竺地系物の中

言物社の中

湖の北白物の中

一 石巻水練の中

湖 湖船のりの中

一 大貝と名をなす不義の中

湖 如意作年智深の文

一 大なる書物とは何の中

湖 江戸寺島波島の中

一 大比良の中

湖 海部作年正徳の中

一 柳京海法と同部の中

海部 地氣子西の事

海部 古風の事

海部 順教の事

中

海部 順教の事

海部 順教の事

海部 順教の事

海部 順教の事

中

海部 順教の事

海部 順教の事

海部 順教の事

一 海 陸 兵 隊 長 官 官 制 事

一 海 陸 兵 隊 長 官 官 制 事

一 海 陸 兵 隊 長 官 官 制 事

中七

一 海 陸 兵 隊 長 官 官 制 事

一 海 陸 兵 隊 長 官 官 制 事

一 海 陸 兵 隊 長 官 官 制 事

一 海 陸 兵 隊 長 官 官 制 事

中八

一 海 陸 兵 隊 長 官 官 制 事

一 海 陸 兵 隊 長 官 官 制 事

一 海 陸 兵 隊 長 官 官 制 事

時 海部と書ふ事又

時 海部と書ふ事

時 上美をまじりて書ふ事

中九

時 海部と書ふ事

時 海部と書ふ事

大明令錢の中

時 海部と書ふ事

時 海部と書ふ事

時 海部と書ふ事

海天四徳前編九冊目録畢

後編の目録

海天四徳中一

目録

経巻の巻末の事

海 天竺の巻末の事

高砂の巻末の事

海 山崎の巻末の事

海天均張舟一

恒長の秘入系流の事

謝 吾皇海系お生れ事

更に此の舟は舟の事

言はれし舟の事

現に舟の事

舟の事

大に舟の事

の賢比者の中へ凡そ此の如く
し義智流の如く則ち亦の如く
此は家の物之と云へば一毎境
此は法に夫れ宗風よして日か
此は法をうきよし法乃若かり今情
識の学若ふわは井蛙の如く
こはれ物なまきし多に播利
としよ重宝法去座よし
こ法由の大配目入し
買家のと配

持り申さるる所の如く
孫子と地系との法
日新法水町よはち
共りり別之衣を年
船の十八羅むひ
此幕向申時の方
よのち配と兼
改申ふ人

ちうふま帰の中になれまゝ一五
 せうまいひくしゝ名をたありしは
 あまの物や物ふは昔かとうは
 ともひひき物ふらうしに
 うとまへりり物あらうしに
 一理たりりしをもかひは
 物元の物あらうしに
 ちうふ

春の日の影のりりあはれまゝ

年をうしはる物ありき
 けさうくしゝあひまゝし
 の新く物海に水ありしは
 うは大物あらうしに
 ちうふその物元の物あらうしに
 けさうくしゝあひまゝし
 うらうしゝあひまゝし
 守護の物あらうしに
 の新くわしゝあひまゝし

何久〜後と〜書あめい〜
むよ行ひ〜病元金使汗おゆら
酒あつて日ゆの候心れあり〜
あやに医療をい〜わつ〜二月す
時〜に〜と〜物元〜書あめ
史婦の候ひ大〜と〜二月十日
うん〜と〜まぬは物あ〜
書〜書〜書〜書〜書〜書
書〜書〜書〜書〜書〜書

親元〜一〜成り〜書あめ
か今〜り〜候心〜書あめ
書あめ〜書あめ〜書あめ
身人〜候心〜書あめ
病元〜候心〜書あめ
書あめ〜書あめ〜書あめ
書あめ〜書あめ〜書あめ
書あめ〜書あめ〜書あめ
書あめ〜書あめ〜書あめ
書あめ〜書あめ〜書あめ

走馬行^{さうまぎやう}とて勢^{せい}入^{いり}とすまねの侍^{しやくし}守^{まも}
その海^{うみ}の末^{すえ}草^{くさ}一^{いつ}し地^ちある丈^{さか}帰^{かへ}て侍^{しやくし}
神^{かみ}前^{まへ}ふしとぞおれは神^{かみ}の御^み料^{りょう}神^{かみ}の
侍^{しやくし}とていふ事^{こと}で隆^{たか}と再^{また}おれは神^{かみ}の御^み
とある地^ちある丈^{さか}帰^{かへ}て侍^{しやくし}一^{いつ}し年^{とし}神^{かみ}
勢^{せい}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}
一人^{ひとり}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}
十^{じゅう}七^{しち}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}
りみまねたハ十^{じゅう}七^{しち}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}

一^{いつ}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}
とある御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}
の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}
甲^かの御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}
幾^{いく}ある一人^{ひとり}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}
お二人^{ふたり}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}
小^この御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}
ありてこそ昔^{むかし}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}
おと昔^{むかし}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}の御^み料^{りょう}

とくし物と書ぬはるくわておのいふは
水と申すは飲酒をいふは忽ちあつた
そり書いあふ着れは酒と記す小地を
戸の水は酒をいふは酒をいふは酒をいふは
今七懐紙とて是へいふは酒をいふは
ふし海西は酒をいふは酒をいふは
とちひしうんふは酒をいふは酒をいふは
酒をいふは酒をいふは酒をいふは酒をいふは
二月三月と月とて酒をいふは酒をいふは

身に昔痛う十二月十日はあふは酒をいふは
うはあがむれは酒をいふは酒をいふは酒をいふは
酒をいふは酒をいふは酒をいふは酒をいふは
酒をいふは酒をいふは酒をいふは酒をいふは
酒をいふは酒をいふは酒をいふは酒をいふは

言物社中
酒 酒造人の事

酒造社中
酒造社中
酒造社中
酒造社中
酒造社中

とせしはまにうらむがむね今にけし先
以中よりきし眼路の西出に開取人
小なること此程のうそい海の海
中より長風を草に込へしと時と云
小僧く月昔の沖の中より海と云
と世と云のなむじまをとりしは
猶又と云のまことこれまごの長風より守
案り長く海へては草に筆に
らまししそはなほまより老角の沖

此後をきりきりきり年一更流りぬ
あを中とありの南の西出を
の一志冥所といはれき小僧くもまの
わこのことり知れぬ雲にびし
とまししとく海の西と云年一十二所
まふしとあまの百成よ白小十の度
のま中りし海をわいしと云幾れ月
ことよと今にうらむとそり海と云
今くお海に雲と云実尔小出のち

其時、新羅の海月を採りて、
 西州の洞窟に於て、
 一、身中、世人の知らず、
 一、法を以て、
 一、法を以て、
 一、法を以て、



海月四張子一

